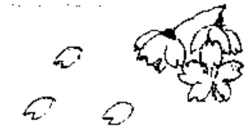


せせらぎ

Message 4　　4/9/2003

「風情のある街」

「こだいら　水と緑の会」
代　表　馬場　政孝

京都で開催された「世界水フォーラム」で、水を「流す文化」から「溜める文化」への転換の重要性が確認され、水に対する意識を根本的に変える必要がクローズアップされるようになりました。世界では飲料水不足で多くの人が死に至るということが起こっていますが、日本ではこうしたことはまだ顕在化していません。しかし、今、適格な対策を怠ると将来深刻な自体を将来するだろうというのが、今回の水フォーラムで打ち出された私達へのメッセージであったわけです。今後「水循環」というものがキーワードとして注目されることになると言えるでしょう。

江戸時代の初期、小平の地で農業を可能にするには先ず水の確保が問題でした。それも、農業用水であるよりも先に農民に飲料水を供給することが不可欠であり、そのために玉川上水の分流が小平の地に網の目のようにひかれたのです。農民にとっては「いのち」を支える水であったわけですから、それこそ大切に大切にこの分水を保護してきたのです。明治以降井戸を中心とした上水が整備されると共に分水の本来の役目は終わるのですが、今日に至るまで分水路は殆ど元の姿を留めながら残っており、小平では貴重な歴史的遺産となっています。300 年以上も前に作られた用水路が、このような良好な状態で保存されているのは全国でもまれな例と言われ、これを今日的な意味づけのもとで再生するならば、小平に良質な水景観を実現できるでしょう。

風情のある街というものは、歴史的遺産と水景観に立脚するものが多いようです。用水路の用地が現在国から小平市の方へ移管されつつあり、これからは市の方で用水路の今日的再生の計画・実施が出来るようになりました。最初はポイントで、それから線で、やがては面で、水と緑の小平を作っていく大きな可能性が生まれたと言えましょう。風情ある街というのは、意識的努力の結果作り出されるものであって、最初から自然にそうなるということはありえません。今大切なことは、この意識を強大にすることであり、豊かなアイディアとデザインの創出力を作り出すことです。日本社会はかなり成熟してきて、いろいろな専門的知識も蓄積しています。日本庭園の伝統の中で、管理された自然に対する抜群の美意識を受け継いでいます。これらのものを撚り合わせることが出来れば、「小平らしさ」を表現しうる水と緑の景観を実現出来るはずです。

1、活動報告　（～4/ 9/2003）

①高橋　裕先生講演会報告　2/15/2003

参加者 120名を越える盛況ぶりでした。現在は深刻な水問題があり、水循環を世界レベルで考えていく必要のあること。高度成長期に失ってしまったものの大きさ。良質な景観こそ都市の品質を計る目安になること。川は気ままに流してこそ川なのだということ等々、内容も面白く大変参考になるお話でした。講演内容レジュメ有り。

②前田小平市長との懇談

前田市長・赤羽環境部長・山下公園緑地課長と会員７名で懇談を持ちました。用水路の中でも民地を通過している部分の扱いは慎重にする。用水路をせせらぎとして復活させることに市長も前向きであり、何か「これが小平」というものを作りたいという希望を抱いていること等、談笑を交えながら忌憚なく話し合えました。今後もこういう機会を持って互いの理解を深めていきたいと考えます。

③小平霊園「さいかち窪」湧水池復活の請願

小平霊園内の「さいかち窪」に雨水を利用して幻の湧水池を復活させようと、東久留米市の市民団体「東久留米の水と景観を守る会」と同時進行で、小平市と東京都に請願を提出しました。小平市議会に提出の分は、全党派の紹介を得て 3月14日建設委員会に於いて全員一致で採択されました。東京都の方は 6月に審議予定です。

3/7日、大雨の中現地を視察。霊園内の1/3 の雨水がさいかち窪に流れ込み、池が出現していました。降雨後すぐに消えますが、壮観な眺めでした。

④武蔵野荘の庭解放

当会の要望に応え、（株）日立国際電気が回田町に所有している接待所「武蔵野荘」の庭が、毎月第三土曜日10:00AM ～14:30PM 解放されることになりました。雨天中止。会社側の依頼により、当分は当会が窓口になり、解放日前日まで希望者を募ります。4月は19日です。見物希望の方は事務局（042-345-6772　馬場）まで御連絡下さい。当日10:00AM 武蔵野荘前に集合です。

また５月より毎月解放日に下記のコースで市内用水路の散策を実施します。

花小金井駅→多摩湖サイクリングロード→延命寺→あじさい公園→鈴木稲荷→
　10:30AM
武蔵野荘→新堀用水→中央公園→鷹の台駅（市内東半分の用水路巡り）
　昼食　　　　　　　　　14:00PM　持ち物：弁当・水筒・敷き物

⑤延命寺検討会出席　3/25/2003

公園緑地課主催の「延命寺検討会」に会員10名が出席。ここは当会がポイントとして考えていた箇所ですが、この度新小金井街道が西武新宿線の地下を潜る工事に当たり、大沼田用水と隣接する土地を東京都が公園として整備します。その際用水路も整

備する方向で、市民の声を聞くための検討会です。公園緑地課の方々とも忌憚なく話が出来、双方協力しあうことを確認しました。次回は5月下旬になりますが、当会の希望を具体的に提示、検討することになりました。小平市が市民団体と対等な立場で意見を聞き施政に反映させるというのは大変に画期的なことです。公園緑地課の気の利いた采配に拍手！今後の市民活動の在り方に、新風を吹き込むことになりそうです。

当会では、サイクリングロードを挟んだ延命寺境内の用水路をそのまま延長させた小平の地域の自然を生かした整備を求めていきます。

⑥聞き取り再開

「用水路　昔語り　第１集」は予想以上の反響があり、会員一同心から喜んでいます。今後も聞き取りは継続し、今秋には第２集を発行する予定です。多くの人々に小平の用水路の歴史を理解してもらい、そうすることでこの街に愛着を持ってもらえることを切望して止みません。冊子の常時販売しています。（１部 200円）

⑦広がるネットワーク

東京都の自然保護民間団体・環境省の「環境らしんばん」に登録され、他団体との交流・情報交換の輪が広がりました。今後とも、東久留米を始め、関連の団体との協調を深めて行く考えです。

今後の活動予定

4・9　会報「せせらぎ　Massege4」発行
　19　武蔵野荘　10:00am 現地集合。申し込みは前日までに事務局に。
　25　定例会
5・11　グリーンフェスティバル　10:00am ～14:30pm 中央公園グラウンド
　17　武蔵野荘　市内東半分の用水路巡り。
　22　延命寺検討会２
　23　定例会
6・　都議会「小平霊園さいかち窪湧水池復活」請願審議
　21　武蔵野荘
　27　定例会
7・19　武蔵野荘
　25　定例会
8・16　武蔵野荘
　22　定例会
9・20　武蔵野荘
　26　定例会
　会報「せせらぎ　Massege5」発行。「用水路　昔語り　第２集」発行。

☆この間継続して聞き取りを実施。

☆雨水利用の学習会、用水路の生態系調査、堰の構築等。

定例会は毎月第４金曜日19:00 ～21:00
小平市中央公民館学習室３で実施
会員募集中

関心のある方は参加自由です。

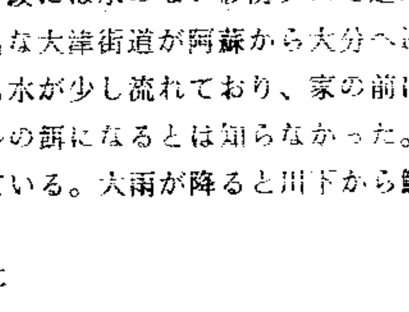
「ただ　水・みずにこだわって」

佐藤　昭藏

1934年　今でも名高い名水地が多い九州、阿蘇山の麓で生まれた。夏は冷たく、冬はもうもうたる湯気がたつ豊富な湧水。そこは九州でも海抜500　m地帯で、その湧水の近くの田圃は、あまりに冷たい水のせいで稲の成育も遅かった。だから水田の一部に水を緩める仕切り畔道もあった。学校名はいまも碧水小学校と呼ぶ。

村全体が源頭部であり、まだ小さい川だけであった。しかし、まさかと思う林の中に昔の泉があり、数十年も涸れていたのに突然水が湧き、もうそこに小魚がいて驚いた記憶がある。また水のある砂防ダム、普段には水のない砂防ダムで遊んだ。家は、徳川時代に肥後熊本から大名の参勤交代で有名な大津街道が阿蘇から大分へ通る道にあり『往還』とよんだ。その両側の側溝には普段も水が少し流れており、家の前にもカワニナがいたが、当時はコビナと呼び、それがホタルの餌になるとは知らなかった。ホタルは沢山いて遊んだが、今もその独特の匂いを覚えている。大雨が降ると川下から鯉やフナが遡上してきて楽しかった。

さて玉川上水の開削から330年余り後、ここ小平へ来たが当時まだ下水道がなく、家は四か所の浸透桝、雑排水用、ぼっとん式浄化水槽を整備しての生活だった。会のメンバーである小川　善一議員が当時市議会で『急げ下水道・・・』と頑張っておられたことは後に知った次第。



自然と水に惹かれて、ある水フォーラムに参加したが、そこである高校で水質観測の部活に人が集まらないという話から、この高度成長期に浮かれて水を汚した世代犯の一人として愕然となった。以来反省の日々を水の勉強で過ごす日々が長くなったと思うこの頃。

小平市には川と呼ぶ川はないが、家の前が上水で、臭い清流復活や、一度だけ蛍が舞い、我が家にも一匹飛び込んできたことがある。その向こう側に新堀用水があって綺麗な水がいつも流れている。

羽村や多摩川にも度々遊びに行ったが、今日の水事情は極めて教訓に満ちているようだ。先のオランダでの世界水フォーラムで『水は未来からの借り物であるから』のメッセージは強烈であった。

水の問題や記録はここ小平の周辺にも多く、多摩地区では特に大切な歴史があるようで面白い。

今、目の前を流れているこの水は、一体いつ頃からで、何処から、誰が、どんな理由で、何処まで、その水量は、その権利は、はては値段がついているか、幾ら誰が誰に支払う関係か、その経緯は如何か？

講演にみえた高橋氏は『多摩川は日本一こき使われた川だ』と。その水を頂く、いや荒川や利根川からも頂く都民として程よい認識とは何か、これはもう時間を忘れる勉強課題となりそう。古くには水積もりとか、寸坪とか立法尺の単位は個と呼んだらしい。明治の近代水道始めでは、東京の一人当たりの使用料は一日17ℓ だった？昭和になり記録は水量は㎥、t になり少しは分かりやすくなったが、こと水利権なるものは難しいことらしい。国の事業では水利権の転換も少し進んできたとされるが、なにせ記録そのものが乏しいらしい。これから少しずつ勉強して、いつか蛇口から入って水道路を辿り、何年掛かるか、何度分岐点に戻るか、最後には太平洋側か日本海側か、そんな旅に出てみようか。

こんなことは、いま水道の水をコップに半分注ぎ、そこに35度の泡盛を加えかき混ぜないまままそっと口に運ぶ、ことがそろそろ限界にきたかな、ということです。

水五訓

一、自ら活動して他を動かしむるは水なり、
一、常に自己の進路を求めて止まざるは水なり、
一、障害に遭い激して勢力を百倍し得るは水なり、
一、自ら潔うして他の汚れを洗い、
　清濁併せ容るるの量あるは水なり、
一、洋々として大洋を充し、発しては蒸気となり、
　雲となり、雨となり霧と化し雪と変じ、凝っては玲瓏たる鏡となり、
　しかもその性を失わざるは水なり、

水五徳

一、淡々無味なれど真味なるのは水なり、
一、境に従って自在に流れ清濁併せて心悠々たるものは水なり、
一、常に低きにつき、下地に有りて万物を成育するものは水なり、
一、無事には無用に処して悔いず、
　有事には百益を尽くして功に驕らざるは水なり、
一、大川となり大海となり雲霧雪となり、
　形は万変すれども、その性失わざるものは水なり、

（河川ハンドブック　久保田　昌治著　から）

黒田如水の作との説もあるが不明と言われている。前者を「動」とすれば後者は「静」と言えよう。前者だけで水五訓、または両者を合わせて水五訓ということもある。

小平霊園の「さいかち窪」の湧水池復活を目指して

田中　清子

小平霊園は開園から半世紀の歴史を経て、落ち着きのある明るい公園の雰囲気を持つ。東久留米・東村山・小平の三市にまたがる広大な園内は、市民にとって散策やサイクリングの場として、また四季の自然を愛でる場として日常的に親しまれている。この霊園の北側付近は雑木林として維持され、ここだけは武蔵野台地のかつての面影をとどめているかのようだ。樹林内は真ん中に入るに従って緩やかに傾斜し、中央はすり鉢の底状を呈している。ここがかつて「さいかち窪」と呼ばれた湧水池で、東久留米を貫流する黒目川の水源となっていたことを知る市民は数少ないことだろう。

現在の「さいかち窪」に水は一滴もなく、完全に枯渇した状態だ。この一帯の自然条件は、霊園開設による雑木林の伐採、人口増による都市化で畑が減少したことで激変してしまった。雨が降っても地下に浸透せず排除され、地下水を涵養する水は断たれているのだ。それでも稀に池は出現する。近年では平成3年と8年に確認されている。幻の池と呼ばれる所以であるが、逆に考えれば、雨水の循環を取り戻せば、湧水池の復活は可能であるという事実の証しである。48㎜の降雨量があった3/7日現地を視察したが、園内の1/3の雨水を集めて「さいかち窪」に池が出現していた。その光景は、冷雨にずぶ濡れとなった体を熱くする程感動的であった。残念ながら翌日には池は消滅していたが、雨水浸透を促進すれば湧水池を復活させ得る可能性の高さと、良質な景観の再現を想起せずにいられない。

「こだいら　水と緑の会」が提出した湧水池復活を求める請願は、小平市議会で全員一致で採択され、東京都に意見書として上申された。東久留米市でも同じ行動が「東久留米の水と景観を守る会」によって実行されている。当面は、東京都議会に提出した請願が6月末に審議される予定に向けて、より多くの市民の声を反映させるために、追加署名を募りたい。より良い小平を実現するのは一人一人の市民の声に他ならない。

こうした小平・東久留米の市民の取り組みは、三市の行政機関の都への「小平霊園内の雨水浸透促進」の働きかけと呼応する活動でもある。循環型社会を目指す東京都の具体的政策実現を期待したい。

「なんということもない、けれども、かけがえのない自然」

中村　正人

アマミノクロウサギ
耳・四肢・尻尾が短い

奄美大島。1995年、日本で初めて動物を原告とした裁判が起きた場所です。裁判は、ゴルフ場開発から奄美の自然を守るためでした。原告の中には開発予定地に暮らす特別天然記念物のアマミノクロウサギがいます。

もちろん、裁判を起こしたのは人間です。でも、奄美の人達は、どうしてアマミノクロウサギたちを原告にしたのでしょう？

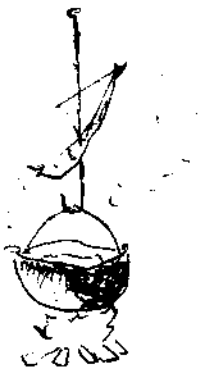
アマミノクロウサギたちが、特別天然記念物に指定される程の稀少な生き物だからでしょうか？確かに当時の新聞などを見る限りでは、この裁判は稀少生物を守るものとして取り上げられる向きがありました。

ところがこの裁判に関わった「環境ネットワーク」の代表を務める薗　博明さんに直接話を伺うと、どうもそうは言い切れないのです。

「東京などにもある、なんということもない里山でも、そこに生活する人達にとっては、かけがえのない価値を持つものでしょう？それと全く同じように、クロウサギやそれが暮らす奄美の森も私達奄美の人間にとってはかけがえのないものです。稀少価値があるからという理由ではありません。」

東京の里山と奄美の自然を同じように考える薗さんの話は少し意外かも知れません。けれども、奄美の自然が稀少価値を持とうが持つまいが、そこに生きている人達にとっては、愛しく、かけがえのないものであることは、すぐ理解出来ます。

日本各地で身近な自然や景観を守る活動に取り組む人達は、稀少価値があるとされる奄美の自然をちょっと羨ましそうに眺めています。「うちにもクロウサギがいてくれたらなぁ。」そんな冗談と溜め息の混じったような声が聞こえてきます。と同時に浮かんでくるのは、そんな声に少し困ったような薗さんの顔ー。



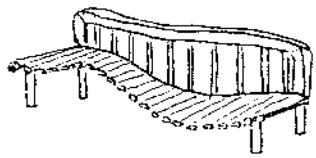
「なんということもない自然」は私達の身の回りに多くあります。けれども、そこで生きていく私達にとっては、「なんということもない自然」だって、何ものにも代え難い大切な存在です。それを言葉で伝えていくのは簡単ではないけれど、無理なことでもありません。「なんということもない自然」の大切さを語る言葉さえ見つければ、どこにでもある、それでもかけがえのない自然は守れるはずなのに。薗さんの少し困ったような顔の中に、そんな声を聞いた気がしています。

清瀬かたくりまつり漫遊記

馬場　淑子

4/1 日清瀬市のかたくりまつりを愛でようと「せせらぎ公園」まで足を運びました。中里自然保護区に指定されている雑木林にはキツネノカミソリだのジボロエンゴサク、ハナ

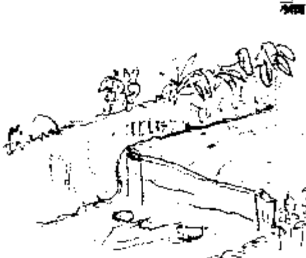
ニラなどが可憐な花をつけ、ロープで仕切られた小道を辿って行くと、奥に位置する雑木林にカタクリが薄紫の清楚な花を一面に広げていました。すぐ南側を走る道路を挟んだ緩やかな丘陵の北側斜面にもカタクリの群生が続きます。これだけ広範囲のカタクリの群落は他に見ないでしょう。案内をして下さったボランティアの指導員は野草に精通しておられ、丁寧に説明する言葉の端々にも、野草に向ける視線からも、中里地区の自然を愛して止まない気持ちが伝わってきます。とても清々しい目の保養をさせてもらいました。



「せせらぎ公園」には、もう一つ特筆すべきことがあります。せせらぎに沿って細長い公園内には、そこかしこにベンチが置かれていますが、そのベンチにこだわりがあります。「木というものにこだわったんです。」と言うように、デザインも凝っており、形もユニークで、思わず腰を下ろしたくなるものばかりです。これは面白い発想です。小平でも是非取り入れたいと願いました。

滴の願い：小平市はこれと言った特徴もなく、また臍のない街だと言われます。確かにそうですが、逆に言えば、周辺の市に比べ地域特有の自然がまだ残っていることにもなり、またそれを生かしてより魅力的な街に出来るということではないでしょうか。『良いところが何もない、んじゃなくて、良いところにまだ気付かないだけなのでは？』と滴は思うのです。臍がなければ作ればいい。例えばアカシア通り。あそこの電線を地下に埋設するだけで立派なメインストリートになります。さらに喜平橋近くのロータリーに噴水を作れば、街道を通行する自動車からも素敵な街に見えるはず。そういう発想が大切だと思います。いろいろな夢を持った滴が集まれば、大きな流れになるはずです。一緒に夢を実現させませんか？

会員募集中！！！



編集後記：発足以来一年足らずで会が急速に発展した感があります。大勢の方々の協力と、暖かいご支援を頂いてここまでやってこれました。会員の顔触れも多彩で、定例会でも皆が思い思いの事を発言します。その発言自体聞いていて面白く、大変さより楽しさが先行した日々でした。会報も少し立派なものになり、会員の「水と緑」に対する思いを載せることになりました。手作りの「用水路 皆語り 第1集」に対しても予想以上の反応があり、多くの方が読んでくださったことに喜びを禁じ得ません。やっていることが間違っていない、という手応えがあります。いろいろな人がいて、いろいろな意見があります。それが一つの夢に向かって協力し合う。とても感激ものです。活動していて良かったと、しみじみ思うこの頃です。（[illegible]）

連絡先　事務局　馬場　TEL/FAX 042-345-6772

HP:http://www2.upp.so-net.ne.jp/water-green/